

技術力を磨く好機に

— 技術士 建設部門（港湾及び空港） —

1. はじめに～受験の動機・経緯～

国土交通省の技術系職員として、調査業務や工事の発注者という立場で建設コンサルタントや建設会社の方と業務を行う中で、自身も一定の技術力を確保・維持しておく必要性を感じていました。技術士2次試験の勉強は、これまでの業務経験から得た技術的知見を振り返り、復習することで、専門知識の定着や専門分野における課題の再認識を図ることにつながり、一技術者としての自己研鑽の良い機会になると考えました。また、職場の同僚で既に技術士を取得した先輩にも恵まれ、試験対策の具体的なアドバイスをもらえる環境であったことも資格取得の大きな助けになりました。

2. 学習のポイント

1) 筆記試験における対策

筆記試験は建設分野全般から幅広く出題されることから、試験対策にどこから手を付けてよいか分からないと感じておられる方も多いのではないのでしょうか。勿論、建設分野全般について網羅的に勉強できることが望ましいのですが、私の場合は、まずは建設分野に関連する「時事問題」と「自身の専門分野」を確実に押さえることから始めました。

前者の「時事問題」とは、新聞や建設業界の専門誌等で大きく取り上げられている記事や頻

繁に出てくる話題です。例えば近年では、（令和元年度試験でも出題された）激甚災害や少子高齢化、働き方改革など社会情勢に関連する事項、あるいはAIや3Dプリンターなど最新技術に関連する事項等が挙げられます。十数年分の過去問で出題された事項とその時代での大きな出来事を比較しながら出題傾向を自分なりに分析し、次に出題されそうなくつかの事項を押さえるようにしました。各事項について、建設分野での課題点やそれに対する対応策を自分なりにまとめてみました。政府や建設業界が示している課題点や対応策、複数の有識者の見解等も参照し、自分の考えと比較しながら整理しておく、多面的な視点からの答案作成に役立ちます。国土交通白書で取り上げられている内容も大いに参考になりました。また、関連する専門用語や技術基準、規定や指針については、正式名称やその漢字での表記、数値・単位を正確に記述できるようにしました。普段の業務においては、これらの用語について記憶が曖昧であっても手元の資料で確認できたり、パソコンの変換ボタンで漢字入力できたりするかもしれませんが、技術士試験では暗記して正確に筆記できる必要があります。

後者の「自身の専門分野」とは、自身が業務上経験した事項です。技術士2次試験の受験申込書に記載する「業務内容の詳細」は勿論のこ

と、それ以外の業務経験についても、例えば「空港計画」「岸壁の設計」「環境への配慮」などの事項に分類し、各事項について同様に課題点、対応策を整理しました。自身が業務で経験した事項については、実体験を通じて得た課題認識、試行錯誤の末に採用した対応策があり、それらは現場に即した技術、独自のノウハウによるものであることから、試験問題で求められる多面的な視点からの具体的かつ説得力のある答案が最も書きやすいと思います。業務実施当時の課題認識や採用した対応策を振り返り、当時は気づかなかった視点からの課題点や、社会情勢や技術水準の変化をふまえて現在であれば別の対応策を選択肢とする可能性なども整理するようにしました。ここでも、国土交通白書や専門誌などを中心に、行政や業界での方向性、有識者の見解等を参照することで、自分の考えと比較し、多面的な視点から頭の整理ができるようになりました。

2) 口頭試験における対策

当たり前のことのように意外と難しいのが、面接官の質問に対して、聞かれていることに簡潔に答えるということだと思います。私自身も試験前に行った模擬面接で指摘されるまで自覚がありませんでしたが、つい自分の知っている内容やその背景などを話し過ぎてしまう傾向があるようです。口頭試験では、定められた評価項目に沿った質問が面接官から順に出されますので、面接時間内にすべての項目で得点できるよう、各質問にはできるだけ簡潔に答えることを心がけました。

自分なりの想定問答を作成して事前準備をすることは勿論ですが、既に技術士試験に合格した職場の先輩方に試験官になってもらい、模擬



国土交通省 国土技術政策総合研究所
空港研究部 主任研究官

くろだ ゆか
黒田 優佳

(取得した資格：技術士 建設部門（港湾及び空港）
資格取得年度：平成28年度)

試験をしたことも効果的でした。話す内容だけでなく、姿勢や態度、声の大きさや話すスピード、分かりやすさなどを客観的に評価してもらおうと、思わぬ指摘や改善点が得られるものです。模擬試験で話す練習を繰り返すことで、本番は自信をもって臨めました。

3. 資格取得後に実務に役立ったこと

資格取得の勉強をする過程で、考えを簡潔な文章にまとめる方法について学べたことや、専門分野での課題とそれらを解決する技術力とは何かを意識するようになったことは、実務でも役立っています。

4. おわりに～受験者へのアドバイス、注意点、励まし等～

身近に既に技術士試験に合格した先輩がいれば、積極的にアドバイスを求めるとよいと思います。可能であればそういった先輩方に、筆記試験対策の自分の答案や、模擬面接の採点をしてもらい、客観的な指摘を得ることが効果的な試験対策になると思います。